

2017



水辺の生き物調査 調査結果報告



平成 29 年 8 月 3 日（水）朝 9 時 30 分から、生土公民館近くの鮎沢川支川で、4 年生～6 年生の小学生 7 人が参加し、水辺の生き物調査を実施しました。なお、調査はコンサルタント会社調査員の指導の下に行いました。

当日の調査のようす



■ ライフジャケットをつけ、調査リーダーから注意事項を聞きました。



■ 川の生き物は草の根元や石の下などに隠れています。何がとれたかな。



■ ルーペやピンセットを使って生き物を観察。写真もとりました。



■ 赤班、青班に分かれ、タモ網、水槽を受け取って色々な場所で生き物を探しました。



■ 陸に上がり、リーダーの説明を聞きながら、捕まえた生き物の名前を調べます。



■ 最後に、捕まえた生き物の名前を班毎に発表しました。

調査の結果

■ サワガニやカワニナ、トンボの幼虫、トビケラ、カワゲラ、カゲロウの幼虫など、全部で **24 種類（5 門 6 綱 13 目 21 科）** の川の生き物が確認できました。

■ 貴重な生物は、静岡県レッドデータブックで準絶滅危惧（生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種）に指定されている**カジカガエル**（成体、オタマジャクシ）が確認できました。

■ すんでいる生物の種類から川のきれいさをしらべる日本版平均スコア法（水生生物による水質評価法マニュアル－日本版平均スコア法－を参照）にこの結果を当てはめると、7.4 点となります。ここから、この川の水質は良好（かなりきれい）であるといえます。

No.	門	綱	目	科	学名	和名
1	扁形動物	有棒状体	三岐腸	サンカクアタマウズムシ	<i>Dugesia japonica</i>	ナミウズムシ
2	軟体動物	腹足	新生腹足	カワニナ	<i>Semisulcospira libertina</i>	カワニナ
3	環形動物	ミミズ	ツリミミズ	フトミミズ	Megascolecidae	フトミミズ科
4	節足動物	軟甲	エビ	サワガニ	<i>Geothelphusa dehaani</i>	サワガニ
5	昆虫	カゲロウ	トンボ	モンカゲロウ	<i>Ephemera japonica</i>	フタスジモンカゲロウ
6				コカゲロウ	<i>Baetis</i> sp.	コカゲロウ属
7				ヒラタカゲロウ	<i>Electrogena</i> sp.	マダラタニガワカゲロウ属
8					<i>Epeorus nipponicus</i>	ユミモンヒラタカゲロウ
9			カワゲラ	オニヤンマ	<i>Anotogaster sieboldii</i>	オニヤンマ
10				カワゲラ	<i>Kamimuria quadrata</i>	クロヒゲカワゲラ
11			カメムシ		<i>Paragnetina tinctipennis</i>	オオクラカケカワゲラ
12				アメンボ	<i>Metrocoris histrio</i>	シマアメンボ
13				ヘビトンボ	<i>Parachauliodes japonicus</i>	ヤマトクロスジヘビトンボ
14			トビケラ		<i>Protohermes grandis</i>	ヘビトンボ
15				シマトビケラ	<i>Hydropsyche orientalis</i>	ウルマーシマトビケラ
16				カワトビケラ	<i>Dolophilodes</i> sp.	タニガワトビケラ属
17				ヒゲナガカワトビケラ	<i>Stenopsyche marmorata</i>	ヒゲナガカワトビケラ
18				ヤマトビケラ	<i>Glossosoma</i> sp.	ヤマトビケラ属
19				ナガレトビケラ	<i>Rhyacophila brevicephala</i>	ヒロアタマナガレトビケラ
20				カクツツトビケラ	<i>Lepidostoma</i> sp.	カクツツトビケラ属
21			ハエ	ガガンボ	<i>Tipula</i> sp.	ガガンボ属
22				ゲンゴロウ	<i>Platambus</i> sp.	マメゲンゴロウ属
23				ガムシ	<i>Hydrocassis lacustris</i>	マルガムシ
24	脊椎動物	両生	無尾	アオガエル	<i>Buergeria buergeri</i>	カジカガエル

もうちょっと詳しく

【学名】……生物につけられた世界共通の名前。ラテン語という言葉が使われている。

【和名】……日本語の名前。

【門（もん）、綱（こう）、目（もく）、科（か）】……生物を分けるための分類階級。門から順に小さい区分となる。

【○○属】…和名が○○属となっているのは、○○の仲間という意味。細かく分けるのが難しい種類。

【日本版平均スコア法】…出現した全ての生物を科レベルで点数化し、それを出現した科数で平均してスコアを求める。
平均スコアは最高 10 点で、高いほど水質が良いとされる。

こんな生き物がいました！

調査を行った川は、水が冷たく流れが速く、川底には石がごろごろしている場所や、砂の場所もありました。今回の生物調査では、その場所に合った様々な生き物が確認されました。きれいな水に生息するフタスジモンカゲロウ、クロヒゲカワゲラ、ヘビトンボ、ごろごろした石の川底に生息するヒゲナガカワトビケラ、カクツツトビケラ、砂や泥がたまった場所に生息するオニヤンマなどです。きれいな川に生息する生物が多く確認されました。

水生昆虫



■フタスジモンカゲロウ（幼虫）

幼虫は流れのゆっくりした川の砂底に潜って生活します。背中のはらひらしたものはえらで、ここで呼吸をします。



■オオクラカケカワゲラ（幼虫）

幼虫は流れが特に速く、水の量の多い川の上流に生息します。約2年かけて成虫になります。



■ヒゲナガカワトビケラ（幼虫）

幼虫は水がきれいな川に生息しています。石の裏に粘液の網を張り、引っかかった生き物を食べます。



■クロヒゲカワゲラ（幼虫）

水がきれいな小さな川に生息しています。成虫の触角が黒いことからクロヒゲという名前がついています。



■ヘビトンボ（幼虫）

幼虫はきれいな川に生息します。肉食であごの力が強く人にもかみつきます。マゴタロウムシともよばれます。



■マダラタニガワカゲロウ属（幼虫）

幼虫は水のきれいな川に生息しています。体表に濃淡のまだら模様を持つことからこの名前がついています。



■オニヤンマ（幼虫）

幼虫は全身に細かい毛が生えています。口には前に伸びる大きなあごがついており、砂の中にかくれて通りかかる獲物を捕えて食べます。



■ヤマトクロスジヘビトンボ（幼虫）

ヘビトンボの仲間です。水がきれいな小さな川に生息しています。ヘビトンボと違い、お腹に房状のえらがありません。



■カクツツトビケラ属（幼虫）

ミノムシのように枯れ葉でつつ状の巣をつくりま。雑食ですが、主に川の中の藻や枯れ葉などを多く食べます。



■マルガムシ（成虫）

幼虫は肉食で、成虫になると草食になります。ゲンゴロウと同じくえらが不揃い、足などの細かい毛に空気をためます。

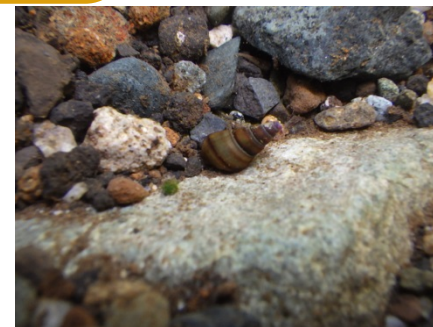
扁形動物



■ナミウズムシ

きれいな水に生息しています。再生能力が高く、体を2分したら2匹に、3分したら3匹になって生きていきます。

貝類



■カワナ

比較的水質の良い水域に生息しています。卵ではなく、小さな貝を産みます。ホタルの餌になる貝として有名です。

カエル



■カジカガエル（幼体）

流れの速い川の上流に生息し、岩と似た灰褐色で平べったい体型をしています。オスはきれいな声で鳴きます。

カニ



■サワガニ

川の上流に生息します。小さいうちはあまり水から出ませんが、大きくなると川のそばの陸地などでもみられます。雑食です。

※生物の写真はすべて小山町で撮影したものです。